

# ○ 北海道命名150年記念 インフラ歴史ツアー (五感で感じよう!小樽の歴史) 【概要】

## ツアーテーマ 『北海道の経済を支えた「小樽港」と鉄道「手宮線」の歴史』

- ◇今から約150年前の明治初頭、小樽港は北海道の内陸部と道外を結ぶ要地となった。
- ◇その後、我が国のエネルギー需要に対応するため、北海道の石炭の供給が国家的課題となり、産炭地幌内から小樽に至る鉄道と小樽港の整備が進められ、小樽港からの安定した石炭の積み出しが実現した。
- ◇当時最新の技術で整備された北防波堤により、小樽港における石炭や物資の安定した荷役が可能となった。
- ◇手宮線は北海道で初めて開通した鉄道で、石炭輸送のみならず、旅客輸送でも活躍した。
- ◇物資流通の拠点として栄え、道内経済の中心地となった小樽には金融機関が集まり、「小樽銀行街」が形成された。
- ☆石炭の運搬から始まった鉄道の歴史と、当時最新の技術で整備された小樽港北防波堤に代表される港湾整備の歴史を学び、その後の海運業の発展がもたらした小樽の繁栄などを実感できるツアー。

## 催行予定

平成30年6月～8月の期間内で全3日程【土日祝日可】（日程は調整の上決定）

## ツアー定員

各日程 20名